



稲田小だより

令和4年度学校だよりNo.11 令和5年2月号

回 覧



新型コロナの影響で12月に実施できなかった「稲田っ子フェスティバル」を1月26日に実施しました。異年齢グループごとにアイデアを凝らしたアトラクションを企画し、お客さんに楽しんでもらおうと、目を輝かせて活動しました。

“遊び”の企画・運営を通して学ぶ協働することの楽しさ

～稲田っ子フェスティバルで味わう異年齢活動のよさ～

校長 茂木 徹

昨年の11月から12月は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、様々な教育活動が制限されてしまいました。そのため、子どもたちが楽しみにしていた全校遊び「稲田っ子フェスティバル」も延期となってしまいました。年が明け、コロナの状況が落ち着きを見せたことから、1月26日によりやく実施することができました。子どもたちは満面の笑みでお店の運営やお店回りを楽しみました。

今回の稲田っ子フェスティバルは、学年の枠を超えた異年齢集団による企画・運営としました。そして、「異年齢集団内での協働」「リーダーシップとフォロワーシップ醸成」を目指すとともに、創立150周年にちなんだ企画を盛り込んだお店作りとしました。このめあてのもと、子どもたちは、自分たちの店作りに汗を流したり、他のグループにない工夫を凝らしたり、熱心に活動していました。はじめは少しぎこちなさもありましたが、話し合いや作業を進めるうちに、自然と打ち解けて、お互いの考えを出し合ったり、新しいアイデアを紹介したりするようになりました。1年生は1年生なりに、6年生は6年生なりにどの学年の子どもたちも、自分にできる仕事や役割をしっかりとって活動を楽しみました。遊びは創造と主体性の宝庫。だからこそ、子ども自ら目を輝かせて取り組むことができたと考えます。そして、遊びを創る活動自体が、自分から動き出す原動力になり、自然と仲間と協働する姿に繋がっていったと考えます。

まさに、このような繋がりや楽しさを無意識のうちに経験できる稲田っ子フェスティバルは、稲田っ子にとって貴重な成長の場だと実感します。これからも大切にしたい活動です。



稲田っ子フェスティバル

【今年の稲田っ子フェスティバルのねらい】

ねらいは大きく3つ。その実現に向け、稲田っ子班（異年齢集団）ごとにアトラクションを考えました。全校によるダイナミックな「遊び」です。



- (1) 異年齢で協力し自主的・計画的に企画・運営すること
- (2) 班の全員が役割を担って協働すること
- (3) 創立150周年にちなんだ企画を盛り込むこと

□アトラクション準備 12～1月（途中コロナで中断）



どんなお店にするか話し合い「こんなレイアウトでアトラクションを作ろうか」



昨年度は、2年生以上の学級ごとにお店を出しました。

今年度は、異年齢集団ごとにお店を出すことにしました。

全部で30ある班を2つに分け、前・後半で役割を分担し、お店を担当する場面、他のお店を回って楽しむ場面の両方を経験しました。

□フェスティバル当日1月26日



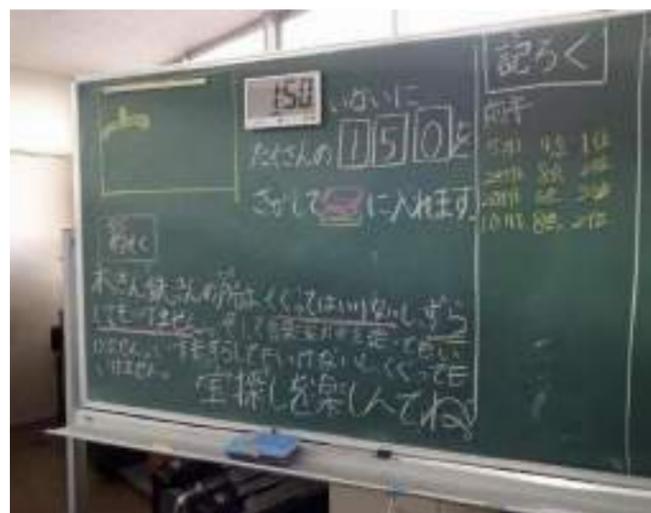
「これから、遊び方の説明をします」宝探しアトラクション前で



合計得点150を目指して「ゴーゴー玉入れ」



ゴムでっぼうでの的をロックオン！



制限時間内に指定の数字を見つけてお宝ゲット！



ストライクを狙ってペットボトルピンにGo！



制限時間内にミッションをクリアするぞ

【稲田っ子フェスティバル 子どもたちの振り返りから】

🔔 フェスティバル後に振り返りした1～6年生の声を紹介します。学年に応じた、しっかりした振り返りをしている姿に感心します。



アトラクションを楽しむ子どもたち

○ 3階の会場で仕事をしているとき、説明がすごくうまくできたと思います。最初、いっぱいお客さんがきてくれたけど、あとから減ってきたので、2年生と廊下に出て大きな声で「ぜひ来てください!」と言ったら、4班ぐらいきてくれてすごくうれしかったです。遊びもたくさんできてうれしかったです。今度やるときは、もっと楽しく遊べるようにしたいなと思いました。
(1年)

○ 稲田っ子フェスティバルは楽しかったです。ぼくは、「150秒間、ボールを守り切れ」のお店でタイマーをかける仕事をしました。そして、タイマーをかけたり止めたりしました。難しいこともあったけど、がんばりました。班のみんなと協力できてよかったです。
(2年)

○ 私の仕事は受付でした。最初は人が少なくて、いっぱい来てくれるかと思いました。だけど、10分くらいしたら一杯の班が来てくれたのでうれしかったです。(中略)最後の後片付けが、アトラクションより楽しかったです。それは、鉄棒を使ったので、後片付けのときに、とても重くて大変でしたが、協力してやったのですぐ終わりました。5年生や6年生も手伝ってくれたからです。だから楽しかったです。
(3年)

○ ぼくは、最初に点数を数える役になりました。やってみたら、難しくとても大変でした。だから、先生に教えてもらいました。アトラクションに来る人で数え方が分からない人がいたら教えることができ、他の人の役に立てたと思います。そして自分の役割を果たすこともできました。
(4年)

○ 稲田っ子フェスティバルでは、班の仲間たちと仲良く協力できたのではないかと思います。私は点数集計係で、ホワイトボードに点数を書いていました。でも、ゲームが終わるまで役目がないので、困っている人に声をかけ、分からないことがあったら教えていました。4年生までは進んで声をかけられませんでした。高学年になったので今までのもじもじした自分を捨て、進んで声をかけました。そして、少しでも皆さんに楽しんでもらえるようにがんばりました。来年は6年生、後ろに隠れることはできません。話し合いなどの時、自分から進んで意見を出したり、みんなのことを引っ張ったりできるように頑張りたいです。
(5年)

○ 班のみんなと遊びを楽しむアトラクション巡りでは1～6年生のみんなが楽しんで遊ぶことができよかったです。「楽しい!」という声が聞けてよかったです。仕事するときには、班のみんなと協力して助け合うことができました。来てくれる人がたくさんいてよかったし、全力で的当てをしてくれてうれしかったです。来年は、私たちはいないけれど、今日以上に全校のみんなと協力して楽しんでほしいです。
(6年)



自主的にお店のPRをする子どもたち



お客さんに楽しんでもらおうと頑張る子どもたち

子どもたちは様々な学びや気付きをしてくれたようです。アトラクションの企画・運営の楽しさや難しさ、お客さんが楽しんでくれることの満足感・自己有用感。そして、仲間と協力することの大切さなど。この活動は人の役に立ちながら自分も楽しむことのできる有意義な“遊び”です。

【冬の上越を楽しむ体験活動】



冬は、厳しい自然環境ですが、雪国ならではの季節を感じ、雪を楽しむことをねらいに、各学年で冬の遊びやスキーに取り組みました。

1・2年生 雪遊び(グラウンド・金谷山)2/1、6



グラウンドと土手で雪遊びを楽しむ1年生

雪遊び、スキー教室

降雪の関係で低学年の雪遊びが延期になりました。2年生は2/1 金谷山オープン初日に実施できましたが1年生は残念ながらグラウンドで。中・高学年は、予定通り池の平スキー場へ行ってきました。



金谷山スキー場で雪遊びを楽しむ2年生

3・4年生 スキー教室(池の平スキー場)2/3



初めてのスキー教室で頑張る3年生



ピースサインでゆとりを見せる4年生

5・6年生 スキー教室(池の平スキー場)2/10



しっかり準備運動をして出発する5年生



最後のスキー教室を楽しむ6年生

おめでとう

【新潟県ジュニア美術展覧会】 奨励賞 3年生2名 4年生2名

【新潟県硬筆書き初め大会】 特選 2年生1名 準特選 1年生2名